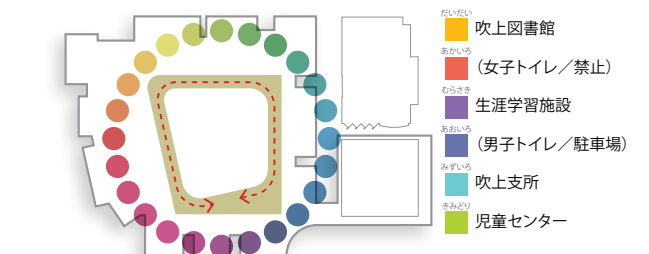




Design Concept

- 1 地域コミュニティのシンボルとなる施設づくり
- 2 親しみやすく開かれた、『学習』『交流』『創造』の拠点
- 3 街へひらく配置計画

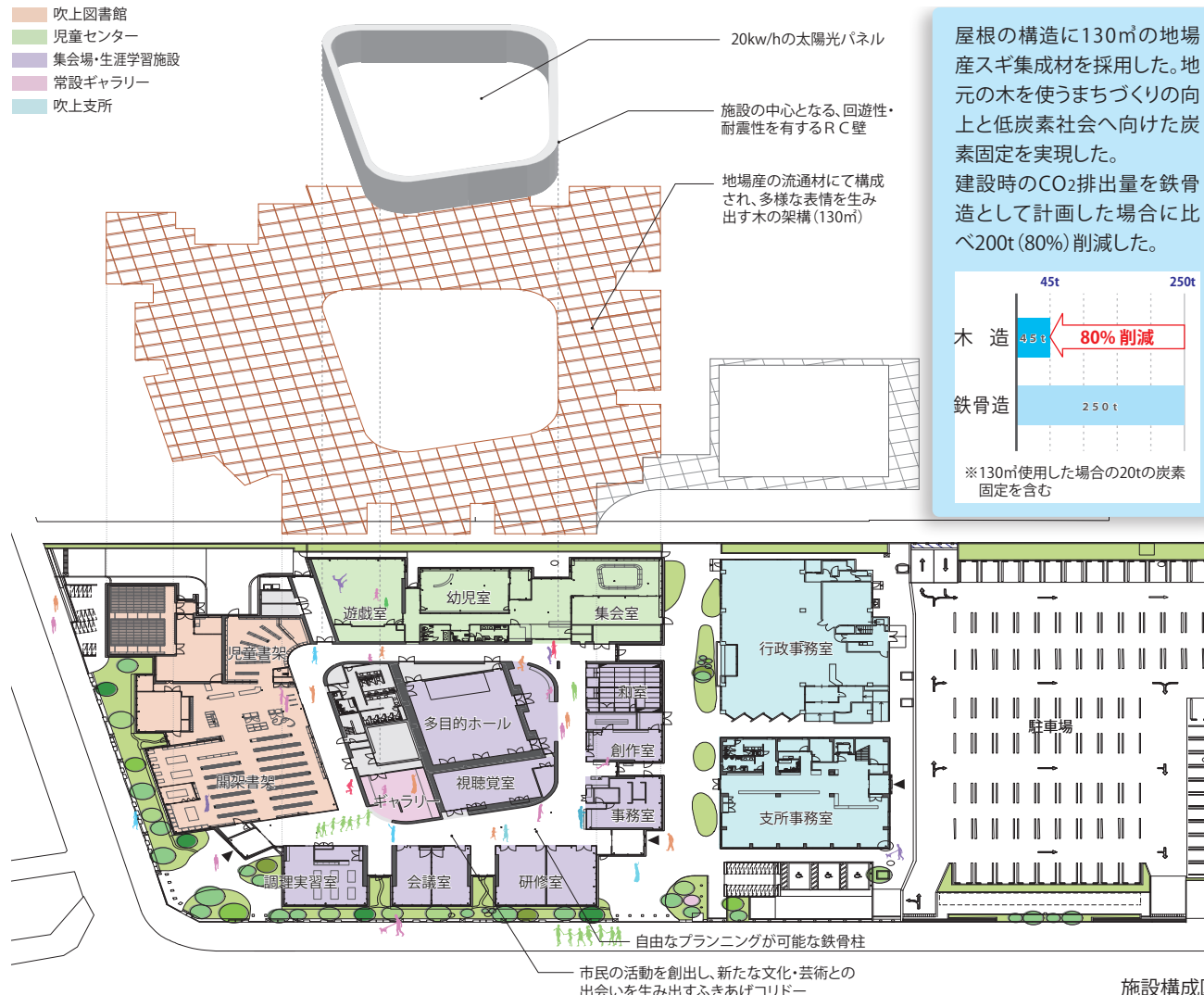
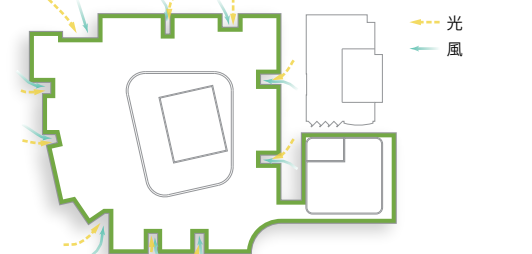
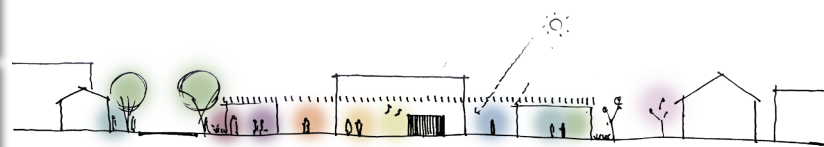
市民の活動や交流の場をつなげる‘ふきあげコリドー’施設の中心をぐるりと囲むように回遊性のある誰でも気軽に訪れることができるふきあげコリドーを設けている。各諸室をつなぐ機能を持つとともに、ギャラリーや掲示板、ベンチなどを配し、市民の憩いの場となるとともに、発表や出会いの場を提供する。またコリドーに付随する用途は色相連になったサインカラーで構成され、回遊性の中にも施設と関連付けられた計画とした。



ひとつの屋根の下

色とりどりの花が咲くように様々な機能が集まったコスモスふきあげ館。

その花々は、大きな木の屋根に温かく覆われ、あふれる賑わいは市民の日々の生活の一部となる。



建 築 作 品 部 門

まちづくり全般、低炭素型社会への推進

- ・建築物の低炭素化への推進
- ・再生可能エネルギーの積極的活用
- ・環境教育並びに教育普及活動の支援

人と地球に優しい木で作られた

市民の生涯学習拠点となる『コスモスふきあげ館』

コスモスふきあげ館は、埼玉県鴻巣市・川里町・吹上町合併協議会において策定された「新市建設計画」における施策別戦略的・重点的プロジェクトの1つである。市が掲げた基本理念である、「学習」・「交流」・「創造」の具象化を目標とし、総合的教育の活動拠点の役割を担ったコミュニティ施設として、市民利用のアクティビティが街の風景をつくり出す新たなシンボルとなる建築を目指した。

図書館、生涯学習施設、ホール、資料館、児童センター、支所の複合用途をひだ状に1階に設け、だれもが気軽に利用しやすい施設とした。それらを回遊性のある「ふきあげコリドー」によりつなぎ、お互いの相乗効果を生み出し、日常生活での市民交流を実現した。

また敷地に沿って各用途が配されたこの建築は、街との調和や連続性、活動の気配を感じることが出来、市民が集う「街の行灯」となる。

内部空間は埼玉県産材で組まれた木格子梁により覆われている。天井高さや遮音性・耐火性を必要とするホールやギャラリーをＲＣ造として施設中心に配置して地震力を負担させ、木格子や支持する鉄骨柱を軽快な架構となるよう計画した。地震力から開放された鉛直柱は、構造モジュールに縛られることなく、フレキシブルな平面計画や軽やかな空間を実現している。活動エリアを平屋の建物とし、敷地全体に公共のやさしい内部空間を取り込むことで、いつも市民で賑わう、愛着のもてる建築を生み出した。

